

# どうとくのひろば



## 6年生の道徳の授業

主題名：本当の友達って？

ねらい：【友情・信頼】

友達のことに深く思いをめぐらせ、相手のためになることを伝えたり、行ったりすることができる。

教材名：「ロレンゾの友達」

あらすじ：

アンドレ、サバイユ、ニコライの3人のもとに、なつかしき親友ロレンゾから手紙が届いた。内容は「明後日の18日夕刻に、思い出の榿の木の下で20年ぶりに会おう」というもの。3人は20年ぶりの再会に心躍らせたが、同時に警察からロレンゾが金を盗んで逃げているということを聞いた。3人は思い思いにロレンゾに対して「逃げる手伝いをする」「お金を渡してやる」「警察への自首を勧める」など自分ができることを考えたが、どうすることが正解か分からない。考えているうちに、警察から呼び出され、捕まったロレンゾと再開する。その後、ロレンゾの無実が分かったが、3人が警察の言うことを信じてあれこれ考えていたことはロレンゾには内緒のままだった。

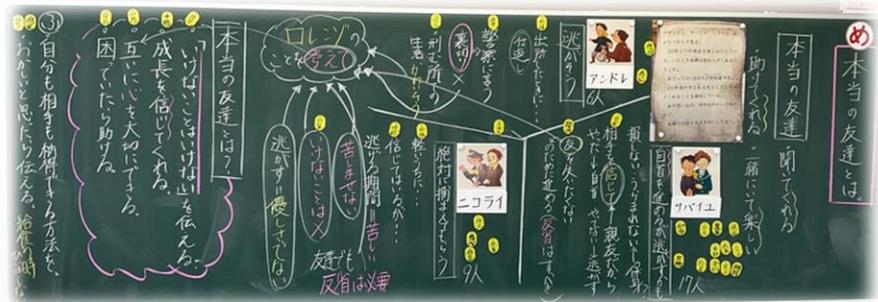
### 授業での具体的な様子

「本当の友達とはどのような存在か」について事前にとったアンケートで多く出ていた考えを紹介しました。「一緒にいて楽しい」「助けてくれる」などの考えに子供たちは共感していましたが、「それだけではない気がする」という意見から「本当の友達とは」という学習問題が設定されました。

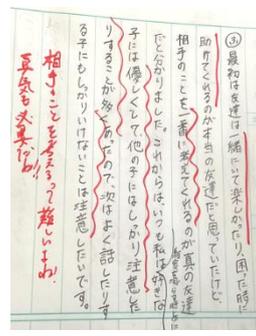


教材を読んだ後、アンドレ、サバイユ、ニコライの3人が考えるロレンゾへの対応を確認し、子供たちは自分がどの登場人物と考えが似ているか黑板に名前磁石を貼って立場を明確にし、そのように行動する理由を考えました。自分の考えがまとまったら、自由に交流し、友達の考えを聞きました。黑板に名前磁石が貼ってあることで、「同じ立場の友達に話を聞いて考えを深めよう」「違う立場の友達に理由を聞いて考えを広めよう」と自分で学び方を選んで交流していました。

その後、それぞれの立場での考え方を全体で交流しました。意見を交流していると、「たしかにそうしたらロレンゾのためになるな」「逃がしてもきっとロレンゾは苦しむのでは」など、考えを深めながら、子供たちはいつの間にか会ったこともないロレンゾの成長や幸せについて考えていることに気付きました。その後、この授業で考えた「本当の友達」についてまとめていきました。「友達であってもいけないことはいけないとはっきり伝えられること」「その人の成長を一番に考えて行動できる存在」など、「本当の友達」は、ただ楽しさを与えてくれるだけではないことに気付いていきました。子供たちの振り返りの一部を紹介します。



- 一緒にいて楽しいだけは違う。本当の友達なら嫌なことも一緒に乗り越えていきたい。
- 友達に優しくした方がいいと思っていたけど、それは友達の成長を邪魔していたのかもしれないから考えて行動したい。
- 友達だと思えば、助けるのは必要だけど、その後友達がどうなるかまで考えたい。



一人一人が考えたことが、きっとこれからの人間関係の中で生かされていくことと思います。保護者のみなさまの考える『本当の友達』とはどのような存在でしょうか。

----- 切り取り -----

道徳だよりへのご質問・ご感想

( ) 年 ( ) 組 児童名 ( )